

(中学社会科)

歴史的事象に対し自ら課題をもち追究する生徒の育成

—身近な地域の歴史学習を通して—



浦添市立教育研究所 教育研究員

浦添市立浦添中学校 盛本 勇

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	目指す子ども像	2
III	研究の目標	2
IV	研究の仮説	
1	基本の仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	3
VI	研究内容	
1	社会科における基礎・基本	3
2	学習意欲を高めるために	5
3	自ら課題を見つけ追究する力	6
4	評価	6
VII	授業実践	
1	単元名	9
2	単元目標	9
3	単元について	9
4	指導目標	10
5	単元の基礎	10
6	指導計画	11
7	本時の活動	15
VIII	研究の考察	
1	作業仮説の検証	17
IX	研究の成果と課題	
1	研究の成果	20
2	今後の課題	20

おわりに

引用・参考文献

歴史的事象に対し自ら課題をもち追究する生徒の育成

—身近な地域の歴史学習を通して—

浦添市立浦添中学校 盛本 勇

【要約】

本研究は生徒の主体的な学習活動が行われる授業の工夫・改善をめざし「歴史的事象に対し自ら課題をもち追究する生徒の育成」をテーマに取り組んだ。「自ら課題をもち追究する生徒」を育成するために必要なことは、①基礎的知識・技能を身につける（学んだ力）、②学び方を学ぶ（学ぶ力）、③学習意欲を高める（学ぼうとする力）の三つの力が必要だと考えた。それらの力を相互に関連させながら授業を展開した結果、生徒の基礎的な知識・技能・学び方や学習意欲の向上が見られ「自ら課題をもち追究する生徒」の育成に成果をあげた。

【キーワード】 □自ら課題をもち追究する生徒 □基礎・基本 □学習意欲 □評価

I テーマ設定の理由

平成14年度から施行される学習指導要領において、「ゆとり」の中で「生きる力」を育成し、「自ら学び、自ら考える力を育てる」「基礎・基本の確実な定着」「個性を生かす」教育の充実が求められている。

社会科における目標は大きく三つの部分から構成されている。①「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し」②「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い」③「国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」。これらの目標を達成するために、授業において「知識を身につける」だけの授業ではなく「学び方を学ぶ学習の充実」が改訂の基本方針にあげられている。特に、地理的分野においては、地域の規模に応じて地域的特色をとらえる視点や方法を学ぶ項目が、歴史的分野では、歴史の流れと地域の歴史を通して歴史を学ぶ学習意欲を高めさせる項目が、公民的分野では、社会的事象を実生活と関連を図った作業的な学習や問題解決的な学習を設定し重視している。

現在、社会科の授業において、知識の獲得が社会科だと感じている生徒が多い。生徒の声を聞くと「先生が話をして、たくさん板書を取るから社会科はおもしろくない」「たくさん覚えることがあるから社会科は嫌い」などの声がかえってくる。社会科の授業があり、テストがあるから、社会科を受けている生徒が多い。保護者からも同様に「社会科の点数が悪いのだが、どうしてか?」「うちの子は社会科が苦手で点数が悪い」という声があり、社会科は知識量を増やす教科としてとらえられていると感じる。

これらを改善するために、一斉授業の形態から、問題解決的な学習を取り入れ、生徒の活動を取り入れた授業を行い、「自ら主体的に学ぶ生徒の育成」を目指してきた。しかし、はじめは興味を持ち楽しく授業をしているが、生徒自身の内なる課題でないためか、徐々に授業を受動的に受けるようになった。課題設定の段階で、生徒自身による「なぜ」という「問い」、「問題」をもち解決していく過程が、上手く設定できずに進めた結果このような状態になったと思われる。

教育課程審議会は、「中間まとめ」の社会科の「現状と課題」の項で、「知識や掲示された課題を調べ

る態度は比較的身につけているが、それらの知識を基に様々な視点から諸地域の特色や歴史的事象などを考察したり、また、それらを自分なりに考えて意見を述べたりする能力については、十分でない面がみられる。」と述べている。

これらのことから授業において、生徒の主体的な活動による問題解決的な学習を通して、課題の持ち方や調べ方・表現の仕方を個々の達成度に応じて自己選択し、個に応じた学習を通して社会科の基礎的・基本的な力を身につけ、「歴史的事象に対し自ら課題をもち追究する生徒の育成」を目的とし、本テーマを設定した。

Ⅱ 目指す生徒像

基礎的・基本的な力を身につけ、歴史的事象に対し自ら課題をもち追究する生徒。

Ⅲ 研究の目標

「身近な地域の歴史学習」を通し、基礎的な「知識・技能・学び方」を身につけ、歴史的事象に対し自ら課題をもち追究する学習指導の工夫を図る。

Ⅳ 研究の仮説

1 基本仮説

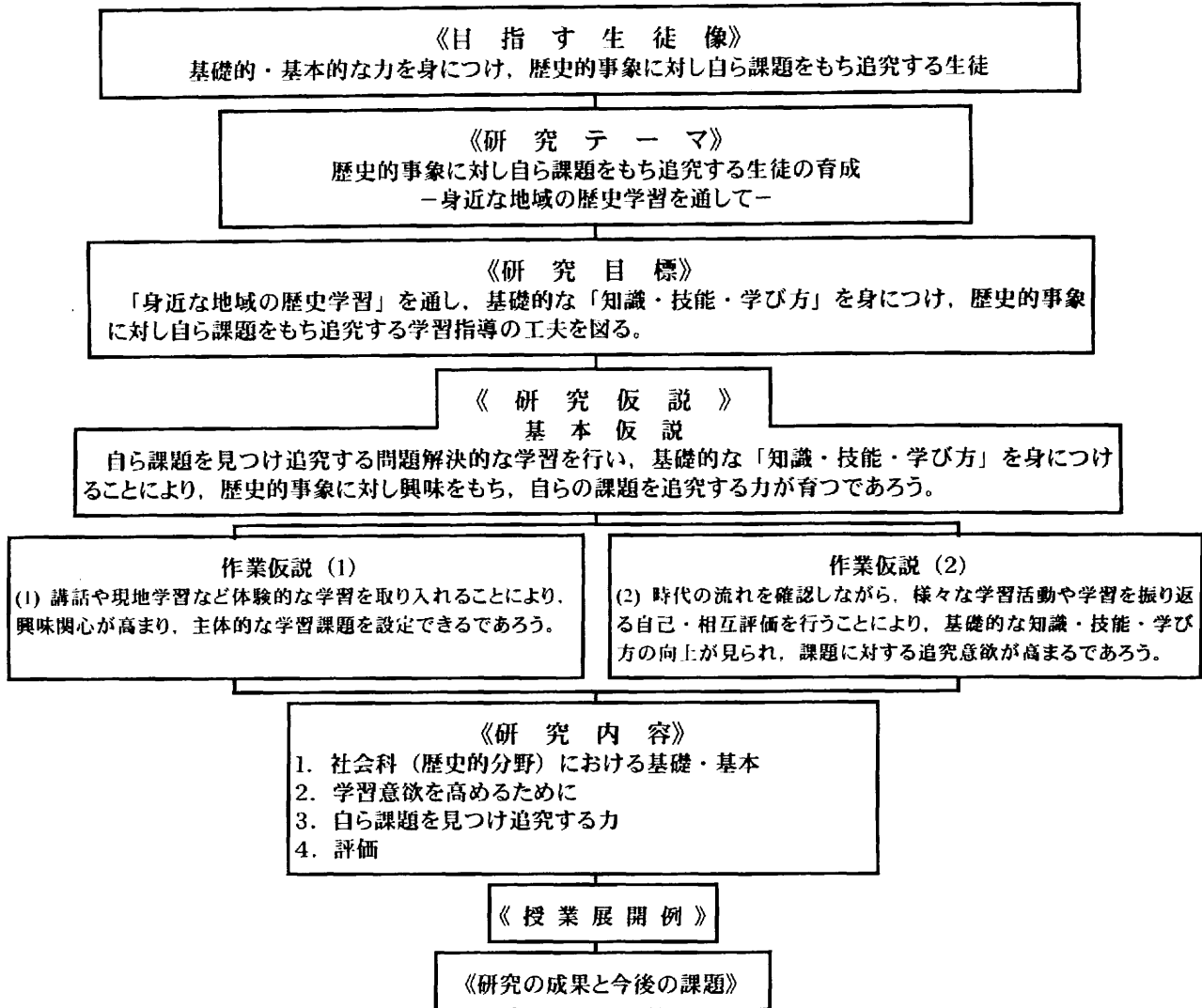
自ら課題を見つけ追究する問題解決的な学習を行い、基礎的な「知識・技能・学び方」を身につけることにより、歴史的事象に対し興味をもち、自らの課題を追究する力が育つであろう。

2 作業仮説

(1) 講話や現地学習など体験的な学習を取り入れることにより、興味関心が高まり、主体的な学習課題を設定できるであろう。

(2) 時代の流れを確認しながら、様々な学習活動や学習を振り返る自己・相互評価を行うことにより、基礎的な知識・技能・学び方の向上が見られ、課題に対する追究意欲が高まるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1. 社会科における基礎・基本

(1) 社会科における目的（基本方針）

国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を培う。

(2) 公民的資質の基礎とは

A 「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察できる生徒」

① 広い視野

○多面的・多角的な見方や考え方

- 世界的・国際的な視野
- ② 社会に対する関心
 - 生徒自ら社会的事象を見だし、それを基に課題を設定し、追究する学習を重視する。
- ③ 諸資料に基づいて
 - 資料を適切に収集・選択・処理・活用・考察・判断する態度を身に付ける。
- ④ 多面的・多角的に考察
 - 「多面的」とは学習対象としている社会的事象が様々な面をもっている。
 - 「多角的」とはそうした社会的事象を様々な角度から考察し理解すること。
- B 「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い」
 - ① 中学校社会科の3分野の学習が目指すねらい。
 - ② 教科の基本的な構造

(3) 歴史的分野の基礎・基本

A 歴史的分野の目標

「歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ、それを通して我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。」

B 歴史的分野の留意点

- ① 小学校・・・「人物の働きや代表的な文化遺産を中心にした歴史学習を一層徹底する。また、取り上げる歴史的事象を一層精選して扱えるようにし、いわゆる通史にならないようにする。」
- ② 高等学校・・・「地理歴史科の科目の履修で世界史A・世界史Bのどちらかと日本史A・日本史B・地理A・地理Bの中から1科目を必修としている。つまり高等学校における歴史学習では世界史は全員履修するが日本史については履修しない生徒がいる。」
- ③ 中学校・・・「小学校の歴史学習が通史にならないようにしていること、そして高等学校では日本史を学ばない生徒もいるということを考慮すると、中学校における歴史学習では通史的な学習が求められることになる。」

C 歴史的分野の基礎（知識・技能・学び方を学ぶ）

(1) 技術的側面（学んだ力「基礎的知識や技能」）

- ① 基礎知識・・・「我が国の歴史の大きな流れを理解させる。」を基本に指導する。
 - 各時代の特色を表す歴史的事象を重点的に選んで指導する。
 - 我が国の歴史の大きな流れを理解させる。
 - 歴史の流れの中で人物（役割・生き方を具体的に）や文化遺産（価値・尊重）を位置づける。
- ② 基礎技能・・・「社会科における学習に必要な学習技術。技術を活用する能力」
 - 資料収集・・・年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料から情報収集させる。
 - 資料選択・・・収集した情報から必要な情報を選択させる。
 - 資料分析・・・資料を分析し、事実を読みとらせる。

- 資料比較・・・いくつかの資料を比較関連させる。
- 資料考察・・・資料を分析・比較し、結論を導き出させる。
- 表現・・・追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。

(2) 理論的側面（学ぶ力「自ら学ぶ力、学び方」ものの見方や、考え方）

① 基礎的な学び方

「学んだ力を活用して、多様な学習活動を展開し、その学習の過程において調べ方や学び方、ものの見方や考え方を学び、身につける」

- 多様な学習活動を展開する。（問題解決的・体験的・作業的な学習等）
- 事実を確認し、違いに気づく・疑問・興味をもつ等により課題を設定する。
- 仮説を立てる。（根拠を基に予測をたてる。）
- 多様な学習活動を通して自らの課題を洞察・考察・思考・追究・判断する。多面的・多角的な見方や考え方ができ、公正な判断ができる。
- 学習経過を振り返り、評価（自己・相互評価）し、新たな課題が設定できる。

2. 学習意欲を高めるために（学ぼうとする力）

生徒の意欲的な活動は、動機づけによって左右される。動機づけには、外発的動機づけ・内発的動機づけに分けられる。学習意欲が高まると言うことは、生徒の内発的動機づけが高まることと関係が深いと思われる。

(1) 外発的動機づけ

- ① 動因低減・・・叱責などの外からの刺激によって緊張を生じさせ、叱責などを受けないために行動を起こす。
- ② 行動強化・・・賞賛など外からの刺激によって、さらに行動を強化する。
※ 外発的動機づけによる学習を進めると、「注意されないために勉強する」「ほめてもらうために勉強する」といった学習になる。知識は増えるが想像力は育ちにくい。

(2) 内発的動機づけ

- ① 知的好奇心・・・曖昧で完結していないものに対して探求しようとする。
(矛盾感・対立感・おどろき感・当惑感・曖昧感)
- ② 達成動機・・・自分がある人物（事象）と同一化しようとする欲求をもっている。その目的が達成されたとき、成功感・成就感・喜びを感じる。
※ 内発的動機づけによる学習を進めるためには、授業の中で知的好奇心が起こる教材が必要である。知的好奇心が刺激されることにより、探究心が生まれ、自らの課題を設定し主体的に学習に取り組んでいける。さらに達成動機を高めるためには、外発的動機づけの行動強化を取り入れながら、成功感や・成就感等の達成動機が高まるように自己評価・相互評価などを工夫すると、達成動機も強化されると考える。

3 自ら課題を見つけ追求する力

図1

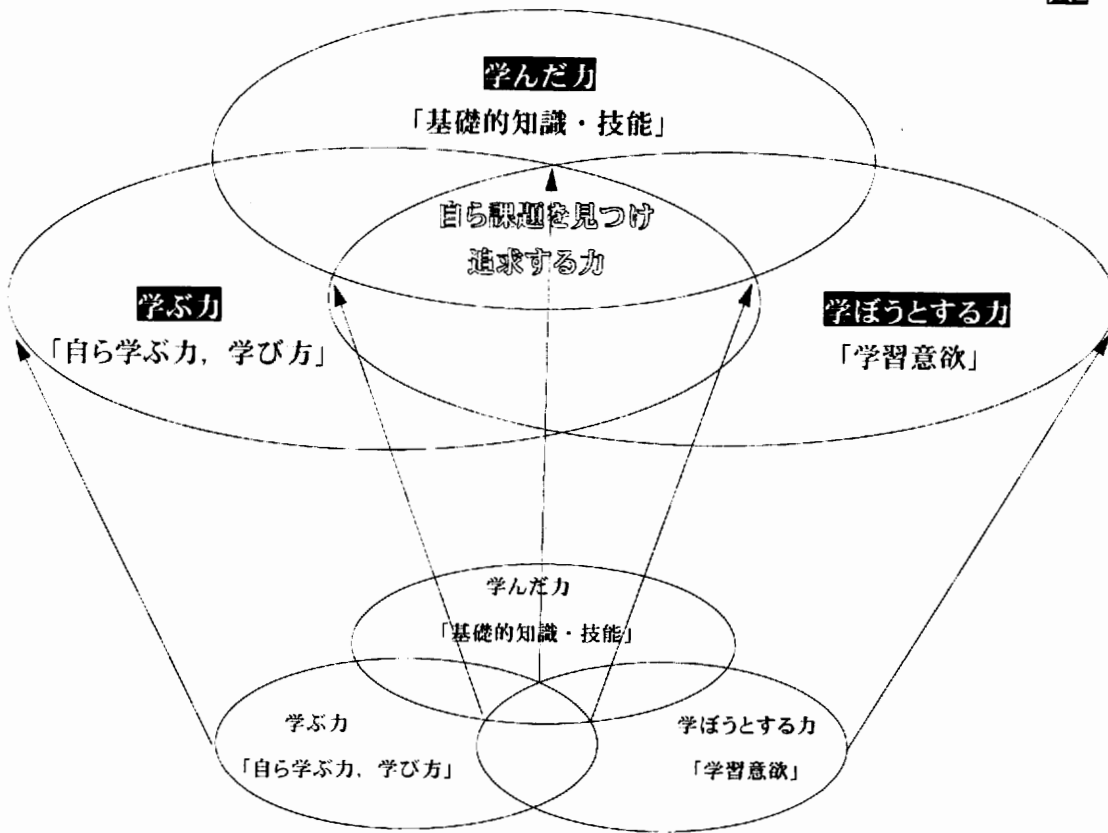
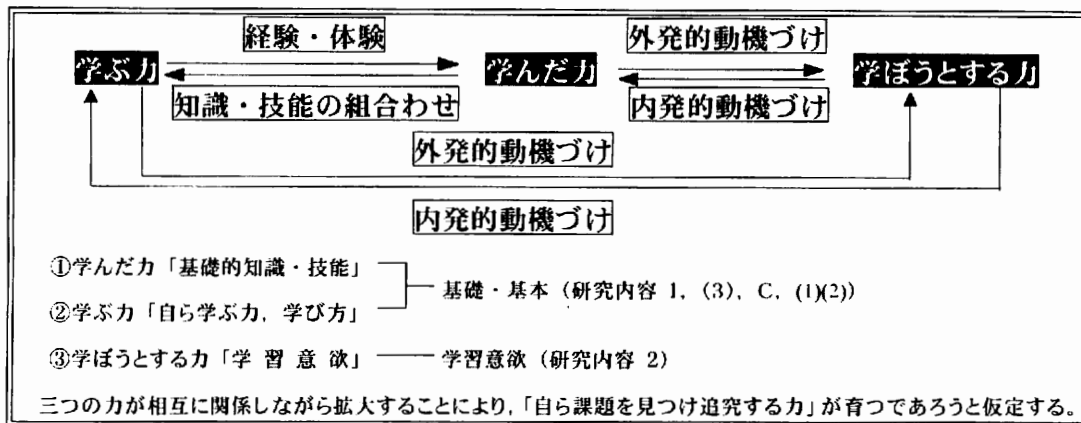


図2



4. 評価

(1) 歴史的分野の評価の観点の趣旨

① 社会的事象への関心・意欲・態度

歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の文化と伝統について考え国民としての自覚をもとうとする。

② 社会的な思考・判断

歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断する。

③ 資料活用の技能・表現

年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。

④ 社会的事象についての知識・理解

我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色などを我が国の歴史と関連のある世界の歴史を背景に理解し、その知識を身につける。(引用：「評価規準・評価方法の研究開発(中間整理)」国立教育研究所)

(2) 「歴史の流れと地域の歴史」の評価規準

表1

観点別評価規準	観点別評価規準の具体例
社会的事象への関心・意欲・態度 我が国の歴史の流れと地域の歴史に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	1 我が国の歴史について、関心ある主題を設定し、意欲的に追究しようとしている。 2 身近な地域の歴史に対する関心を高め、意欲的に調べようとしている。
社会的な思考・判断 我が国の歴史の流れと地域の歴史について、歴史的事象から課題を見だし、時代の移り変わりや地域の具体的な事項と我が国の歴史とのかかわりを多面的・多角的に考察している。	1 我が国の歴史について、関心ある主題を設定し、時代の大きな移り変わりを考察している。 2 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域の具体的な事柄と我が国の歴史とのかかわりを考察している。
資料活用の技能・表現 我が国の歴史の流れと地域の歴史に関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究した過程や結果をまとめたり、発表や討論したりしている。	1 関心ある主題に関する年表や歴史地図、絵画、文献、映像などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表したりしている。 2 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地に選択して活用し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論したりしている。
社会的事象についての知識・理解 我が国の歴史の流れについて時代の移り変わりに気づき、また、身近な地域の歴史とのかかわりの中で我が国の歴史を理解している。	1 時代の大きな移り変わりに気付いている。 2 身近な地域の具体的な事柄とかかわらせて、我が国の歴史を理解している。 (引用) 「評価規準・評価方法の研究開発(中間整理)」 国立教育研究所

【例：単元評価・評定用紙】

※単元における観点別評価は、各観点20点満点とする。(関心・思考・技能) + (知識点) = 総合評価

※各学期における評価は、単元評価点(50%) + 定期テスト点(50%) = 学期評価(評定)

表2

番号	氏名	関心・意欲・態度				思考・判断				技能・表現				評価			知識 点数	総合 評価 (評定)
		①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	A	B	C		
1		A	A	A	B	A	A	A	A	B	A	A	B	9	3	0	18	72(5)
20		C	C	B	C	C	B	B	B	C	C	C	C	0	4	8	4	24(2)

観点別評価規準(単元) A(5点): 十分満足・・・80%以上の達成 B(3点): 概ね満足・・・50%以上～80%未満の達成 C(1点): 努力を要する・・・50%未満の達成	5段階評価(単元) 5(72点以上)・十分満足できると判断されるもののうち、特に高いもの(90%以上) 4(64点以上)・十分満足できると判断されるもの(80%以上) 3(40点以上)・概ね満足できると判断されるもの(50%以上) 2(20点以上)・努力を要すると判断されるもの(25%以上) 1(20点未満)・一層努力を要すると判断されるもの(25%未満)
--	---

1. 歴史の流れと地域の歴史
 (1) 基礎的・基本的内容と基礎的・基本的事項、及び観点別評価の規準

基礎的・基本的内容	観点別評価の規準		
	①社会的現象への関心・意欲・態度	②社会的な思考・判断	③資料活用技能・表現
<p>基礎的・基本的事項</p> <p>・主題については、生徒の興味や関心に依りて設定する。 ・主題は、幾つかの時代にまたがるものを設定し、生徒たちが時代の移り変わりに気付くように配慮する。 (主題例) ア、歴史上の人物 イ、衣食住の変化 ウ、外国とのつながり エ、貨幣 オ、人口 カ、行事や祭り</p>	<p>ア。我が国の歴史について、関心ある主題を設定し、意欲的に追究しようとしている。</p>	<p>ア。関心ある主題に関する年表や歴史地図、絵画、文獻、映像などの様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表したりしている。</p>	<p>ア。時代の大きな移り変わりに気付いている。</p>
<p>基礎的・基本的事項</p> <p>・身近な地域とは、基本的に生徒の居住地域や学校の所在している地域をいう。 ・博物館や図書館などの活用も十分に配慮する。 (具体的な事例の例) ア、目録、遺跡 イ、城跡 ウ、歴史的建造物 エ、○○市の昔と今(土地利用図の比較) オ、地域の祭りや行事</p>	<p>イ。身近な地域の歴史に対する関心を高め、意欲的に調べようとしている。</p>	<p>イ。身近な地域の歴史を調べ、活用する様々な資料を収集し、適切に選択して活用することにも、追究し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論したりしている。</p>	<p>イ。身近な地域の具体的な事例と、我が国の歴史を理解している。</p>

(2) 評価基準表

界計	主な学習内容	観点	学習目標	具体的評価目標	観点別評価の規準		
					A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する。
1	浦添中学校の遺跡	①イ	●校内にある遺跡について講話や出土品を通して歴史探究のおもしろさを知る。	○講話や現地学習から地域の歴史に対する興味や関心が高まる。	○楽しんで講話や現地学習を行っている。	○講話や現地学習を楽しめない。	
2	浦添市の歴史(歴史ガイドとの現地学習)	②イ	●身近な地域に関心をもち、遺跡の見学を通して、歴史についての興味を高める。	○課題から主体的な仮説を立てようとしている。	○課題を理解した仮説が設定できている。	○課題から仮説が設定できず、関心を示さず促されて仮説を考えない。	
3	仮説を立てよう! (琉球王国の成立・個人仮説・班仮説)	①イ	●テーマをもとに課題を個人で仮説を立てる。	○琉球の歴史に興味を持ち主体的な仮説が設定できる。	○課題から主体的な仮説を立てようとしている。	○関心を示さず促されて仮説を考えない。	
4	個人仮説を発表しながら課題を多面的・多角的に考察し、一つの仮説を立てる。	②イ	●個人仮説を発表しながら課題を多面的・多角的に考察し、一つの仮説を立てる。	○琉球の歴史を背景に主体的な仮説が設定できる。	○課題を背景をもとに仮説が設定できる。	○課題を背景をもとに仮説が設定できず、関心を示さず促されて仮説を考えない。	
5	今までの学習をもとにこの時代の琉球・日本・世界の出来事を年表にわかりやすくまとめる。	②イ	●今までの学習をもとにこの時代の琉球・日本・世界の出来事を年表にわかりやすくまとめる。	○課題に対して多面的・多角的な考察ができる。	○話し合いを活発に行うことができ、時代の流れや他国とのつながりを押さええたりやすくと作成できる。	○話し合いを活発に行うことができ、時代の流れや他国とのつながりがわかるように作成できる。	
6	自らの課題を解決するために、情報を収集し、必要な情報を選択・分析・比較・考察し、方法を工夫する。	③イ	●自らの課題を解決するために、情報を収集し、必要な情報を選択・分析・比較・考察し、方法を工夫する。	○図書資料から仮説検証に必要な資料を収集・選択し、適切に活用できる。	○必要な資料を収集・選択できる。	○資料の収集や選択ができず、必要な資料を収集・選択できない。	
7	必要となる情報を収集し、必要な資料を収集し、方法を工夫する。	③イ	●必要な情報を収集し、必要な資料を収集し、方法を工夫する。	○インターネットから仮説検証に必要な資料を収集・選択し、適切に活用できる。	○必要な資料を収集・選択できる。	○資料の収集や選択ができず、必要な資料を収集・選択できない。	
8	個人で集めた資料を班で考察し、結果をまとめる。	③イ	●個人で集めた資料を班で考察し、結果をまとめる。	○課題に対して調べた内容をレポートにまとめることができる。	○レポートに文章でまとめられている。	○レポートにまとめられない。	
9	まとめた結果を発表し、新たな課題(疑問)について話し合いをもつ。	①イ	●まとめた結果を発表し、新たな課題(疑問)について話し合いをもつ。	○ディスカッションで意欲的に意見が言い合える。	○発表を数回行う。	○あまり発言をしない。	
10	相互評価、自己評価を行う。		●相互評価、自己評価を行う。				

Ⅶ 授業実践

社会科学学習指導案

平成13年12月5日(水)2校時
浦添市立浦添中学校2年7組
男子20人 女子16人 計36人
授業者 盛本 勇

1 単元名「身近な地域の歴史－琉球王国から沖縄県へ－」

2 単元目標

身近な地域の歴史を調べる活動を通して、歴史の基礎的な「知識・技能・学び方」を身につけさせ、地域への関心を高め、自ら歴史的事象に対し課題をもち追究する態度を身につける。

3 単元について

(1) 授業観

歴史的分野の「歴史の流れと地域の歴史」という項目において、「身近な地域の歴史」を調べる活動を、歴史についての学び方を身に付ける一方法として扱い、「学び方を学ぶ」学習として、問題解決学習を取り入れ、本校内（浦添中学校）の遺跡を学ぶ（文化課の講師による講話）ことを導入に、市内（浦添市）の歴史を市内歴史ガイドと連携し現地学習（浦添城跡）を行い（雨天時はインターネット・ビデオを利用）、江戸時代に島津氏（薩摩藩）が琉球を支配し、琉球王国から沖縄県に移る時代の「身近な地域の歴史」を、生徒の課題追究の場として設定する。生徒同士の話し合い活動を通して課題に対し多面的・多角的に考察し具体的な仮説を立て、その課題を追究する方法やまとめ方・表現の仕方・発表方法などを選択しながら、基礎的知識・技能・学び方を身に付ける「学び方を学ぶ」学習を目指す。

(2) 教材観（地域の歴史）

①身近な地域の歴史を通して学び方を学ぶ

「地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、歴史の学び方を身につけさせることがねらいである。」と、平成10年学習指導要領－社会科－（解説）に記載されている。本単元は「学び方を学ぶ」単元として構成する。

今回身近な地域として、「琉球王国から沖縄県へ」を単元として、本校内（浦添中学校）にある遺跡を学ぶことを導入に、市内（浦添市）の歴史を学び、日本とのつながりの中で琉球王国が沖縄県に移り変わる様子を理解する。

②浦添の歴史

沖縄の歴史の中で浦添は重要な場所である。浦添（中山）は、「舜天^{しゆんてん}」「英祖^{えいそ}」「察度^{さつと}」三人の王によって「浦添王統」が200年あまり琉球の中心として栄えた。「舜天」は、日本から来た「源為朝」と沖縄の女性との間に生まれたという伝説の持ち主で、「英祖」の父親は太陽だったという伝説があり、その子ども「テダコ（太陽の子）」と呼ばれた。「察度」の母親は、天女だという伝説もある。浦添は当時の沖縄を治めていた南山・中山・北山の中でも外国（中国等）との貿易がさかんで沖縄の中心として栄えた。

その後、「尚巴志」が「武寧（浦添の王）」を滅ぼし、中心を首里城に移した。「尚巴志」は、南山と北山を滅ぼし、琉球を統一し「琉球王国（1429年）」を作り上げた。

③琉球王国と日本

その後1609年に、薩摩の軍隊が琉球に攻め入り、浦添の龍福寺（現在の浦添中学校の場所にあった）や住宅を焼き、首里城を攻め降参させた。「尚寧王」や家来達は2カ年間鹿兒島につれて行かれた。「尚寧」は許されて帰るとき「子々孫々まで、薩摩にそむかない」と誓約書を書かされた。

④琉球王国から沖縄県へ

1868年日本に新しい政府が誕生し、1872年「琉球王国」から「琉球藩」、1879年に「沖縄県」となった。

(3) 生徒観

おとなしく素直な生徒が多い。社会科や歴史が好きという生徒は約60%いるが、授業を受ける中で「どうしてだろう」「なぜだろう」と感じ、追究したいと答えた生徒が、48%と半数以下である。「社会科」の印象は、将来役にたつと答える生徒も見られるが、年代を覚えたり、難しい漢字を覚えるといった印象が強く、暗記学習としてとらえられている様子うかがえる。どのような学習が好きかという問いに、教師主導の授業43%、自分で調べる学習24.2%と、受動的な学習を好む傾向にあり、調べ学習に対して積極的に取り組めない様子もうかがえる。これらのことから、本単元を通して、身近な地域を題材とし学習に対する興味関心を引きだし、主体的な考え方や、多面的・多角的なものの見方・考え方を身につけ、学習意欲が高まり、自ら課題をもち追究できる生徒の育成を目指す。

4 指導目標

- (1) 身近な地域における具体的な事象を講話や現地見学（ガイドの説明）を通して学習することで、地域の歴史に対して興味や関心を高める。
- (2) 琉球王国が島津氏に支配を受けてから、263年後に琉球藩となることに気づかせ、「なぜ約263年もかかって藩になったのか」を課題としてとりあげることで日本の歴史や琉球王国の成立までの歴史の流れから個人仮説を立てる。
- (3) 他の生徒の仮説を聞くことで、課題に対し多面的・多角的に考察し、より具体的な仮説が立てられる。
- (4) 学び方を学ぶ学習を通して、歴史的な事象に対する見方や考え方を身につけることにより、歴史的な事象に対する興味・関心が高まり、課題を追究する学習態度を育てる。

5 単元の基礎・基本

(1) 基礎知識

- ・ 琉球、日本の歴史と世界の歴史のつながりと大きな流れを理解できる。（1187年～1879年）

(2) 基礎技能

- ・ 図書資料やインターネット資料から必要な資料を収集・選択し、適切に活用できる。
- ・ 調べた内容をレポートにまとめることができる。

(3) 基礎的な学び方

- ・ 講話を聞いて、歴史学習の興味・関心を高める。
- ・ 現地学習から地域の歴史に興味を持つ。
- ・ 課題から主体的な仮説を立てる。
- ・ グループ内での話し合いから、課題を多面的・多角的に考察する。
- ・ 調べた結果をもとに、ディスカッションを行う。（新たな課題の設定）
- ・ 単元に2回相互評価を取り入れる。（仮説設定後と単元終了後）
- ・ 相互評価を参考に単元を振り返り、自己評価を行う。

6 指導計画

《本單元における問題解決学習の進め方》

(1) 興味を持つ（興味・関心を高める）

身近な地域の具体的な歴史的事象を取り上げ、生徒の興味や関心を高める。

- ① 学校周辺の歴史的遺産について市の文化課に協力してもらい講話を受ける。
- ② 市内遺跡ガイドを利用し、浦添城跡での市の歴史、琉球王国の成立を学ぶ。

(2) 課題から仮説を立てる。（多面的・多角的な考察）

テーマ「琉球王国から沖縄県へ」をもとに、課題「なぜ島津氏の琉球支配から263年たって、琉球王国から沖縄県になったのか」について、個人で理由を考え仮説を立てる。その後3～4人の班を編成し、班内で個人の仮説を発表しながら班での仮説を立てる。

- ① 琉球王国の成り立ちを確認する。
- ② 島津氏の支配から263年後に琉球藩になったことを確認する。
- ③ なぜ、琉球王国は263年たってから藩になったかについて個人で仮説を立てる。
- ④ 3～4人の班で、個人仮説を発表しながら、班での仮説をまとめる。
- ⑤ 予想年表を作成する。

(3) 情報収集・選択・分析・比較・考察・まとめ（資料・活用、思考・判断）自らの課題を解決するために、情報を収集し、必要な情報を選択・分析・比較・考察し、まとめ方を工夫する。

① 情報収集

教科書・資料集・図書・コンピュータ（インターネット・ソフト）・博物館・美術館・その他の方法から自己選択し情報を収集する。※授業では図書室、コンピュータ室を選択し調べ学習をする。

② 資料選択

収集した情報から必要な情報を選択する。

③ 資料分析・比較・考察

資料を分析・比較し、事実を読みとり考察し、結論を導き出す。

④ まとめ方

ノートに収集した情報をまとめる。琉球王国を中心に日本・世界の歴史が確認できるように年表を作成する。学習した過程を記録していく。

(4) 表現する（表現、多面的・多角的な考察）

- ① 代表班（2～3班）が、課題の結果についてまとめた内容を発表する。
- ② 発表に対する質問や疑問に思ったことを学級で話し合う。

(5) 新たな課題（興味・関心を高める）

- ① 「もし琉球王国が、他の国に支配されていたら・琉球王国のままだったら」について4班を編成しディスカッションをする。

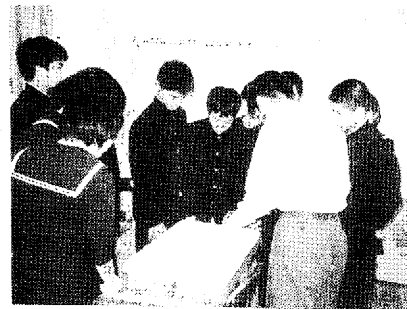
(6) 振り返る（学び方の確認、知識・理解）

- ① 問題解決的な学習を振り返り、自己評価・相互評価を行い「学び方」の達成度を確認する。
- ② 年表テスト

《指導計画》

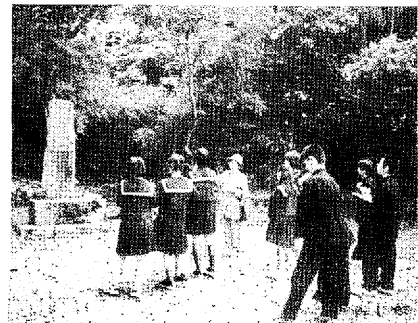
第1時：浦添中学校の遺跡！（講話）講師：浦添市文化課

生徒活動	教師支援	観点
ノートに日程表を貼る （資料1） 〈作業1〉 浦添中学校の敷地内にある遺跡について講話を聞く	身近な地域の歴史についての調べ学習の日程を確認する。 本単元の学習記録をノートに取ることを指導する。 講師：渡久地 龍福寺のことについて講話をする。 浦添中学校内になる遺跡についての講話から興味や関心・疑問のある事柄を歴史ガイドなどに質問できるように質問カードを宿題（希望者）としてあたえる。	資料活用 興味関心 資料活用



第2・3時：浦添市の歴史（歴史ガイドとの現地学習）

生徒活動	教師支援	観点
歴史ガイドと浦添城跡をめぐるながらガイドの説明をまとめ、興味や関心・疑問のある事柄について質問等をする。決められた時間に集合場所に集まる。	安全指導をした後、歴史ガイドの人数に学級を分け、現地学習を行う。その際質問カードの活用を確認する。 出席確認のあと、今後の学習の流れを説明し、テーマ「身近な地域の歴史」のもと現地学習を行う。 次の時間、個人課題を決めることを確認する。	資料活用 興味関心



第4時：仮説を立てよう！（琉球王国の成立・個人仮説・班仮説） 【本時】

生徒活動	教師支援	観点
〈作業1〉 琉球王国についての事象を確認する。 〈作業2〉 「なぜ263年もかかって藩になったか」について個人で仮説を立てる。 〈作業3〉 3～4人で班を編成し、班内で個人仮説を発表し、班の仮説を立てる。 〈作業4〉 班の仮説を発表する。（1～2班）	琉球王国について学習したことを確認する。 島津氏の琉球支配が1609年だったことを確認し、その後263年たってから、琉球藩になったことを気づかせ、「なぜ263年もかかって藩になったのか」について個人仮説を立てさせる。 班編成は座席を基準に3～4人になるように班を編成する。 個人の仮説と班の仮説をノートに記録させる。	知識理解 思考判断 思考判断



第5時：班仮説発表・年表予測
(発表・予測年表作成)

《班仮説》

生徒活動	教師支援	観 点
(作業1) 班の仮説を発表する(7~8班) (作業2) 調べる方法を選択する。(班内で分かれてもよい) ①図書館で図書で調べる ②コンピュータ室でインターネットで調べる (作業3) 個人で予想年表を作成する (作業4) 相互評価をする(資料2)	予想の違いを記録するように指示する。 2時間の調べ学習の時間で効率よく情報を収集できるのはどの方法か考えさせる。 日本と沖縄の事象を教科書の年表をもとに予想する。 沖縄の事象 察度が中山王・尚巴志全島統一・龍福寺が島津氏に焼かれる ・黒砂糖が作られた ・ペリーの来航・琉球藩 日本の事象 室町幕府・応仁の乱 ・豊臣秀吉全国統一 ・江戸幕府・鎖国・ペリー来航・明治維新・大日本帝国憲法	思考判断 思考判断 思考判断



2年7組 班名 琉球班

班員名(学級番号)

1. 亮介 ⑫ 2. 正教 ⑮

3. 由香利 ⑰ 4. 好 ⑪

※ ①個人予想と根拠②班予想と根拠をまとめる。

① [友利] 藩の名前をずっと考えていた。③
 ④ 自分で勝手に考えた。

[佐久川] 日本で、いろいろの問題がおこって、琉球を
 行か行か支配できなかった。④
 ⑤ 年表を見ると、1年おきぐらいのペースで
 問題がおきているから

[友利] 沖縄の文化を大きくしようとしました。⑦
 ⑧ 沖縄には変化文化があるから

[知名] 島津氏が、てくやてしまし、琉球支配をつく
 者がなく、263年間そのままにされていた。⑧
 ⑨ 琉球は、そんなに大きな国じゃ無いので、特に支配
 したいと思っ者がいなかった。

② [班予想]
 日本で、いろいろの問題がおこって、琉球を行か行か
 支配できずにいた。

[根拠] 年表を見ると、1年おきぐらいのペースで問題
 がおきているから。

第6時：調べてみよう1・活動場所：図書館、コンピュータ室

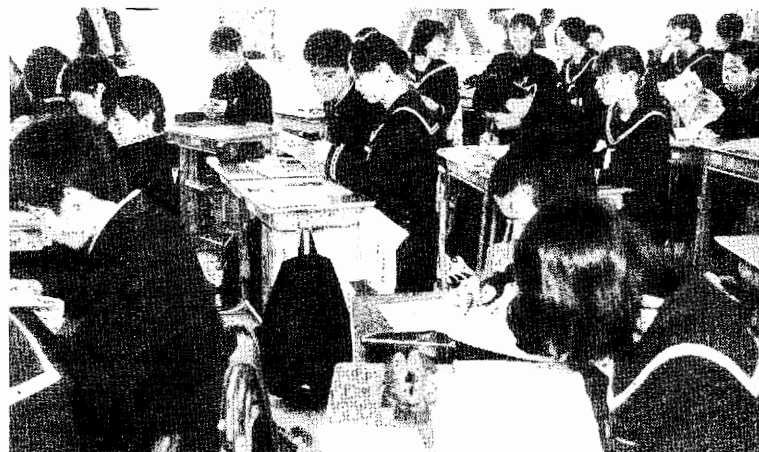
生徒活動	教師支援	観 点
(作業1) 図書館：本から調べる。 コンピュータ室：インターネットで調べる。 (作業2) 調べた内容をノートに工夫してまとめる。	今回はTTをくみ、図書館とコンピュータ室を同時に調べ学習の場所として活用する。 インターネットは、あらかじめリンク集を作成しておく。 学習の最後に個人評価として、振り返る材料になることを確認する。ノートには、学習の記録を取るよう指示する。	資料活用 資料活用

第7校：調べてみよう2・活動場所：図書館・コンピュータ室

生徒活動	教師支援	観 点
<p>〈作業1〉 図書館：本から調べる。 コンピュータ室：インターネットで調べる。</p> <p>〈作業2〉 調べた内容をノートに工夫してまとめる。</p> <p>〈作業3〉 年表を作成する。</p>	<p>今回はTTをくみ、図書館とコンピュータ室を同時に調べ学習の場所として活用する。 インターネットは、あらかじめリンク集を作成しておく。 年表を作成させる。日本と世界の年表も付け加えさせる。</p>	<p>資料活用</p> <p>資料活用</p> <p>資料活用表現</p>

第8時：まとめ・活動場所：教室

生徒活動	教師支援	観 点
<p>〈作業1〉 班で自分の調べた内容を発表し、個人・班の予測とくらべ、各自ノートに事実をまとめる。 テーマに基づいて、各班で発表用のレポートを作成する。</p> <p>〈作業2〉 相互評価をする（資料3）</p>	<p>課題に対するレポートを作成する。調べたことから気づいたこと・感じたこと・協力したこと・計画したことなどをノートに記録するように指示する。</p>	<p>思考判断</p> <p>資料作成</p>



9時間目：代表発表・ディスカッション・活動場所：教室

生徒活動	教師支援	観点
<p>〈作業1〉 調べてまとめた事実を代表の班(2~3班)で発表する。 調べられなかったことや、事実と違う内容などを話し合う。</p> <p>〈作業2〉 課題として、「もし琉球が~だったら」という設定で各班ディスカッションを行う。</p>	<p>全班的発表ではなく、指名された班のみの発表にする。 (歴史的事実に差がないため) わからないことや、他の班との違い、新たな疑問などを話し合わせる。</p> <p>琉球王国から琉球藩・沖縄県と移り、戦後琉球政府となる沖縄は、どの国(独立)に属した方がいいのか、または、メリット・デメリットなどを話し合う。</p>	<p>表現</p> <p>興味関心 思考判断</p>

第10時：振り返ろう!

(自己評価・相互評価・社会へのかかわり)

活動場所：教室

生徒活動	教師支援	観点
<p>〈作業1〉 個人評価用紙に、学習を振り返り自己評価をする。</p> <p>(資料4)</p> <p>〈作業2〉 小テスト(資料5)</p>	<p>各班のまとめを確認し、興味がある内容や・まとめ方などでよいところや、改善した方がよいところを、相互評価用紙に記録させる。</p> <p>学習の記録を参考に自己評価をさせる。 年表テストを行い時代の流れが身についているかを確認する。</p>	<p>思考判断</p> <p>興味関心 思考判断</p>

自己評価表

2年 7組 5番 氏名： 斐子

第1回相互評価集計		学習を振り返っての自己評価・感想・反省	
仮説・根拠のたて方	優(1) 個 良(2) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(1) 個 可(0) 個	もっとよく考えて仮説をたてればよかったと思いました。あと根拠もたてればよかったなと思いました。
説明の仕方	優(2) 個 良(1) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(1) 個 可(0) 個	ふつうに説明した。根拠がいえませんでした。
話し合いでの意見	優(2) 個 良(1) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(1) 個 可(0) 個	みんなといっしょに考えたり意見を話し合ったりしました。
年表の作り方	優(0) 個 良(3) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(0) 個 可(0) 個	まだ色もつからなかったし、きれいに書いていなかったのでも、きれいにまとめようと思います。
ノートのまとめ方	優(1) 個 良(2) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(1) 個 可(0) 個	とても、きれいで、あまりきれいにまとめられなかった。あとできれいにまとめようと思います。
第2回相互評価集計		学習を振り返っての自己評価・感想・反省	
資料の集め方	優(2) 個 良(1) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(1) 個 可(0) 個	コンピューターでいろいろ集めたりした。(インターネット)
話し合いでの意見や協力	優(2) 個 良(1) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(1) 個 可(0) 個	みんなといっしょに話し合いをしたり、考えたりした。
年表の作り方	優(0) 個 良(3) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(0) 個 可(0) 個	まだ未完成でもごつたのであとできれいにまとめたいと思います。
ノートのまとめ方	優(2) 個 良(1) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(1) 個 可(0) 個	もっとがんばるようにしたいと思います。
発表の仕方	優(1) 個 良(1) 個 可(0) 個	優(3) 個 良(1) 個 可(0) 個	しなかった。

優：優れている点をあげる
良：改善するとちょっと良くなる点をあげる
可：努力する点をあげる

7 本時の活動 (4/10)

(1) 授業仮説

- ① 全体での既習事項の整理をすることで、自分なりの仮説が立てられるであろう。
- ② 少人数グループを編成させ、お互いの仮説を発表し合うことで、多面的・多角的なものの見方や考え方ができるであろう。
- ③ 多面的・多角的に考察した仮説を、班の仮説としてまとめさせることで、主体的な仮説が立てられるであろう。

(2) 学習計画 (第4時: 仮説を立てよう!) 【教室】

分	授業の流れ	生徒の活動	教師の支援	観点評価
5	学習過程の確認	日程表から今後の学習の流れを確認する。(資料1)	今後の学習の進め方を日程表を資料に確認する。	
5	琉球王国の成立についての確認	前時までの学習から琉球王国に関係のある事象を発表する。	前時までの学習から琉球王国に関する事象をノートにまとめた内容から発表させる。	前時までの学習から琉球王国の成立に関する事象が言えるか。 (知識理解)
10	個人仮説を立てる	なぜ琉球王国は島津氏に支配されてから約270年立って琉球藩になったのかについて個人で仮説を立てノートにまとめる。	個人での仮説を予測させその根拠をノートにまとめさせる。	課題に対して自分の考えで仮説を立て根拠がまとめられるか。 (思考判断)
2	班編成	座席を基準に3~4人のグループを編成する。	9班編成で、時間がかからないように教師で班を決める。	
10	班仮説を立てる。	個人仮説を発表しながら班内で意見をまとめ仮説と根拠をノート・レポートにまとめる。	他の生徒の仮説を聞き多面的・多角的に仮説を検討させる。レポートは提出させる。	各個人の仮説を聞きながら、課題を多面的・多角的に考察できるか(思考判断)
10	発表	班でまとめた仮説と根拠を発表する。 他の班の発表を聞き違いを見つけ、けノートに記録する。	時間を見て、1~2班の発表とする。残りは次の時間に発表する。	班でまとめた仮説・根拠を他の班に伝えられるか。 (資料活用表現)
3	次時の確認	日程表や学習計画を確認する。	次時からの授業の流れを説明する。土日に校外学習を行うに勧める。保護者の協力も各班で行うように指示する。	

(3) 本時の評価

- ① 前時までの学習から興味・関心・疑問をもち、積極的に授業に参加できたか。
 - 興味関心：主体的な発言や行動が見られたか
- ② 課題に対して主体的に仮説・根拠がたてられたか。
 - 基礎的な学び方：主体的な仮説が立てられたか
 - 思考判断：根拠をもとに仮説がたてられたか
- ③ 課題に対して他の生徒の仮説を聞き多面的・多角的に考察し、話し合いから具体的な仮説・根拠がたてられたか。
 - 基礎的な学び方：仮説を多面的・多角的に考察し具体的な仮説が立てられたか
 - 思考判断：多面的・多角的に考察し、具体的に根拠をもとに仮説が立てられたか
- ④ 仮説・根拠を適切にまとめ、発表できたか。
 - 資料活用表現：レポートにまとめ発表ができたか

(4) 授業仮説の結果と考察

- ① 全体での既習事項の整理をすることで、自分なりの仮説が立てられるであろう。

(結果) 全員仮説を立てることができた。

(考察) 講話や現地学習から得た情報を全体で確認することで、体験をふまえた知識から学習課題を主体的に捉え自分なりの仮説を立てることができたと思われる。歴史的な流れや根拠をたてた仮説も見られた。
- ② 少人数の班を編成させ、お互いの仮説を発表し合うことで、多面的・多角的なもの見方や考え

方ができるであろう。

(結果) お互いの仮説を発表することができ、その中からお互いの考えを話し合うことができた。

(考察) 3~4人で班を編成することで、聞き易く、話しやすい人数でお互いの仮説を発表することにより、仮説に対する根拠や疑問を活発に話し合うことができたと考える。互いの仮説を話し合う中で多面的・多角的なものの見方や考え方ができたと思われる。

③ 多面的・多角的に考察した仮説を、班の仮説としてまとめさせることで、より具体的な仮説がたえられるであろう。

(結果) 全班が仮説を立てることができた。具体的な仮説を立てた班は約半数。

(考察) 十分な話し合いの時間を設定することで多面的・多角的に考察した班の仮説をレポートにまとめることができたと考える。

Ⅶ 研究の考察

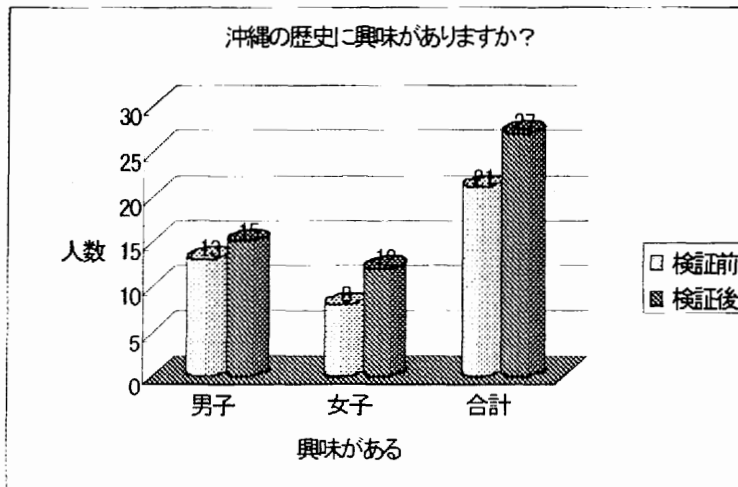
1 作業仮説の考察

(1) 講話や現地学習など体験的な学習を取り入れることにより、興味関心が高まり、主体的な学習課題を設定できるであろう。

(結果) 校内の歴史的遺跡や身近な地域の歴史を現地で学ぶことにより、新しい気付きや、より深い知識を得ることで、沖縄の歴史に興味があると答えた生徒が14.8%増えた。その後の学習課題からほとんどの生徒が仮説を立てることができた。

(考察) 校内で発見された遺跡などを実際に手にとって確認することや、いつも見ているものに歴史的な意味があることを、講師やガイドから話を聞き、驚き・発見・気付きが生まれ生徒の内発的な動機づけが高まったと思われる。また発掘作業は、資料をもとに予測することが大切であることを学習し、本單元における歴史の学び方、学習課題から予測をし、仮説を立てることができたと思われる。

《アンケート》沖縄の歴史に興味がありますか? **グラフ1**



(考察)

検証後は沖縄の歴史に対して興味がある生徒が約80%と高く、学習を通して地域の歴史に対する興味関心が高まり、授業後の感想からも地域の歴史をさらに知りたいと答えた生徒も多数でた。歴史的事象に対する追究意欲が高まったと考える。

(2) 時代の流れを確認しながら、様々な学習活動や学習を振り返る自己・相互評価を行うことにより、基礎的な知識・技能・学び方の向上が見られ、課題に対する追究意欲が高まるであろう。

- (結果1) ①知識：単元末の小テスト(20点満点)において男女ともに平均16点であった。
 ②技能：仮説に必要な資料を図書やインターネットを利用し収集選択できた。
 様々な資料を分析・比較しながらグループで考察しレポートにまとめることができた。
 ③学び方：講話や現地学習・調べ学習などを取り入れることにより、自ら考える学習を中心に取り組むことができた。

(結果2) 社会科の授業で「なぜだろう」「どうしてだろう」と追究したいと思うことがありますか？の問いに検証前 48.5%検証後 73.5%と23%の増加が見られた。

授業中 わからないことがある時にどうしますか？の問いは「あきらめる」と答えた生徒は検証前 18.2%検証後 5.9%と12.3%の減少が見られた。

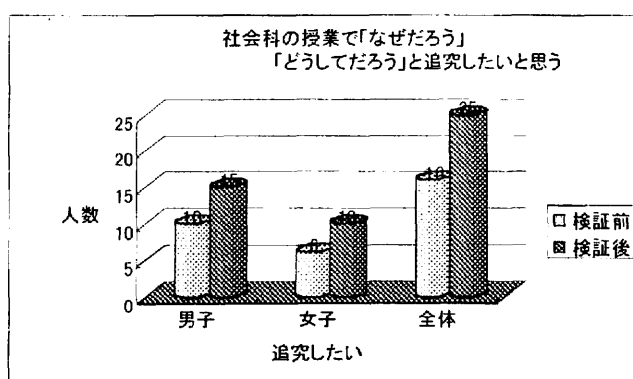
どのような社会科の授業が好きですかの問いに、検証後、調べ学習は 34.6%、校外学習は24.8%の増加が見られた。学び方を学ぶ学習を通して追究意欲が高まり、歴史的事象に対する積極的な関わりが高まったと考える。

- (考察1) ①知識：江戸末期までの日本の歴史をもとに琉球・日本・世界の歴史的事象から年表を作成させることにより、沖縄の歴史と世界や日本の歴史の大きな流れをとらえることができたと考える。
 ②技能：グループ学習や単元の中で相互評価を取り入れることで、自分の学習を振り返ることができ、学習方法の工夫や改善ができたと思われる。
 ③学び方：講話や現地学習において生徒の内発的な動機づけが高まることで、主体的な学び方を学ぶ学習に取り組めたと思われる。

(考察2) 生徒の知的好奇心を刺激する学習内容や課題を設定することができ、内発的な動機づけを高め、相互評価などを取り入れることで達成動機を高めることができ、生徒の学習意欲が高まることで、主体的な取り組みにつながり歴史的事象に対する追究意欲が高まったと思われる。

《アンケート》社会科の授業で「なぜだろう」「どうしてだろう」追究したいと思うことがありますか？

	a. ある		b. ない	
	検証前	検証後	検証前	検証後
男子	10	15	7	4
女子	6	10	10	5
合計	16	25	17	9
%	48.5 %	73.5 %	51.5 %	26.5 %



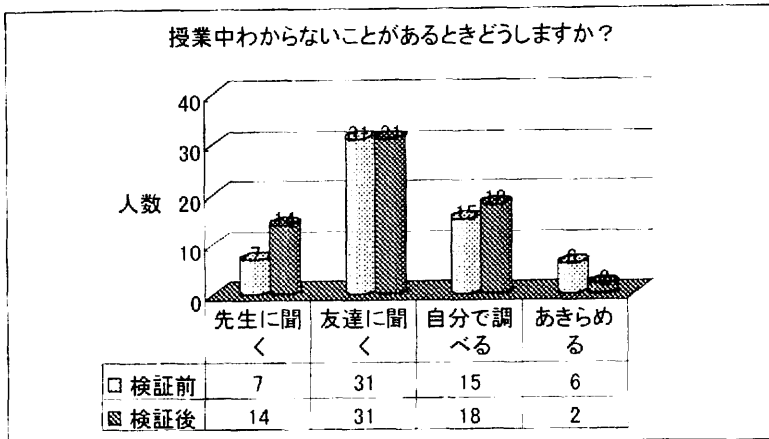
(考察)

グラフ2

授業を受けた後「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問をもち追究したいと答えた生徒が25%増加した。主体的な学習を展開することで知的好奇心を刺激し、歴史的事象に対し積極的にかかわる態度が高まったと考える。

《アンケート》授業中わからないことがあるときどうしますか？（複数回答）

グラフ3



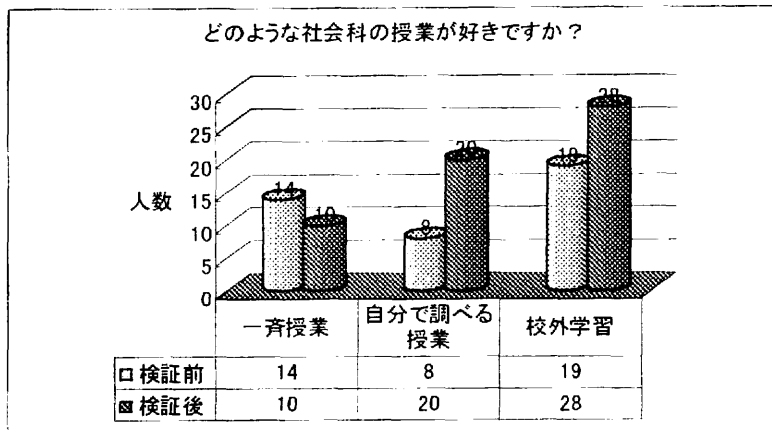
（考察）

あきらめると答えた生徒が 12.3%減少し自分で調べる生徒が 7.4%上昇した。

様々な学習を体験することで基礎的な技能や学び方の方法が向上し、疑問等に対しての追究意欲が高まったと思われる。

《アンケート》どのような社会科の授業が好きですか？（複数回答）

グラフ4



（考察）

検証後、調べ学習は 34.6%、校外学習は 24.8%の増加が見られた。学び方を学ぶ学習を通して追究意欲が高まり、歴史的事象に対する積極的な関わりが高まったと考える。

《授業を受けての感想》歴史的事象に対し自ら課題をもち追究したいと考える生徒の感想

C君	最初は疲れると思ったけどやってみたら楽しくて、授業が終わるのもはやく感じていたから、こんな感じの授業だったら今からもやってもいいと思った。いろんな人の話を聞いて、沖縄にはこんなにいっぱい歴史があることがわかった。
D君	僕は、今回の授業で、思ったことは、校外学習などもできて、くわしく、調べることもできて、とても、短時間でたくさん学ぶことができました。だけど、学ぼうとする気持ちがないと、全然意味のない授業になることもわかりました。これからは、意識して授業を受けたいと思います。
E君	自分で調べてみるのは、思っていたよりも難しくて、大変でした。しかし、終わってみると面白くて、先生の話聞くだけの授業とは違い自分の頭を使うので勉強している気がする。
Fさん	私は歴史には興味があったけれど、沖縄の歴史は、よくわからなかったから、あんまり興味がなかったです。しかし、この授業を受けて、いろんな人から聞いたり、自分なんかで調べてみたりして、だんだん沖縄の歴史がわかってきて、少し興味がわいてきました。だから、これから先、ひまがあればもう少しくわしく調べてみたいと思います。
Hさん	このような授業だと「おもしろそう～」と思いますが、普通の授業だと「むずかしそう」とか「大変そう」とか思う。また、このような授業だと、自分のわからないことを、そのままほっとくのではなく、自分で調べたくなる。楽しく社会の授業をすることができた。普通の授業では学べないようなことを学べたような気がした。またこのような授業をしたいと思った。
Mさん	渡久地さんの講話から、今まで、盛本先生と授業してきて、琉球から沖縄に変わるまでの間のことがわかりました。浦添城趾にいて、ガイドさんに説明してもらい、沖縄のことがよくわかりました。私は、この授業でちゃんと「学習」できたと思います。また、機会があったら、調べてみたいです。

IX 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 講話や現地学習など体験的な学習を取り入れることで、興味・関心が高まり、全員が仮説を設定できた。そのほか、既習事項から仮説の根拠を具体的にたてる生徒も半数を超えた。
- 様々な学習活動を展開し、学習を振り返る、自己・相互評価を行うことにより、基礎的な「知識・技能・学び方」の向上が見られた。
- 単元を通して身近な地域の歴史に対する追求意欲が高まった。

2 今後の課題

- 新教育課程における各学年の年間計画
- 絶対評価の評価規準（各学年・各単元の評価規準・基準）
- 図書館・コンピュータ教室利用計画（各教科・総合・その他との調整）
- 校外施設の利用・人材バンクの活用計画

おわりに

本研究は「基礎的・基本的な力を身につけ、歴史的事象に対し自ら課題をもち追究する生徒」を目指し取り組んできました。上記の目的を達成するために様々な学習形態を取り入れ、生徒の知的好奇心を刺激し、内発的な動機づけを高め、与えられた課題を主体的なものにするために仮説を立てることで自らの課題とし取り組みました。その結果、生徒の身近な地域に対する興味関心が高まり、追究する意欲が高まったとおもわれます。検証授業を実施するにあたり、学校行事や図書館・コンピュータ教室の調整、外部講師の連絡・調整等に本校職員の多大なる協力をいただきました。今後学校教育において、生徒に基礎的・基本的な力を身につけさせ、興味関心を高め、主体的な学習に取り組むためには、一教師・各教科単位ではなく、学校全体で取り組まなければいけないことを実感しました。今後生徒の「生きる力」を育てるためにさらなる努力を続けたいと思います。

最後に、6ヶ月間という長期にわたる教育研究の機会を与え、支援して下さった浦添市立浦添中学校の伊吉栄輝校長をはじめとする諸先生方、そして当研究所の大城所長、新川係長、山里主事、他職員と教科指導員として指導助言を下された、沖縄県教育センター研究主事我那覇念先生の皆様には心から感謝申し上げます。

※ 参考・引用文献、資料

- ・『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－社会編－』 文部省 （1999）
- ・『新中学校教育改訂講座』 佐伯真人、大杉昭英、澁澤文隆（共著） 株式会社ぎょうせい （2000）
- ・『新しい社会科の研究開発9・社会科の本質
目標・内容をどう構造化するか－小・中連携の系統－』 北俊夫 明治図書 （2001）
- ・『熊本県立教育センター平成12年度研究紀要Ⅰ
第29集（社会科・地理歴史科・公民科）』 宮本哲也、栗谷雅之 熊本県立教育センター （2000）
- ・『中学校教育課程編成要領』 沖縄県教育委員会 （2000）
- 『基礎的・基本的事項事例集』 沖縄県教育委員会 （2002）
- ・『評価規準・評価方法の研究開発（中間整理）』 国立教育政策研究所 （2001）